開催地名：愛知県岡崎市	
開催日時	令和 4 年 12 月 3 日（土）　9：30　～　11：30
開催場所	岡崎市福祉会館
語り部	菊池　健一　（宮城県仙台市）
参加者	市防災課、地域住民　74 名
開催経緯	当市では、小学校区を単位とする自主防災組織に「防災担当委員」を設置し、地域の防災リーダーとしての活躍を支援している。平常時には、自主防災組織の会長と協力し地域防災力の向上に努めることを役割としているが、被災時や被災後の役割について事例を踏まえ具体的に伝えることに苦慮しており、自主防災組織における「防災リーダー」の役割をどう啓発するかが課題となっている。
内容	（１）震災被害の背景 東北地方は非常に地震が多い地域であり、特に宮城県など太平洋沿岸地域については、過去に幾度となく地震や津波の被害を受けてきた。1896 年（明治 29 年）にマグニチュード 8.5 の明治三陸地震、1933 年（昭和 8 年）にマグニチュード 8.1 の昭和三陸地震、1978 年（昭和 53 年)に宮城県沖地震、2003 年（平成 15 年）に宮城北部連続地震、2005 年（平成 17 年）に宮城県沖地震を記録している。1978 年の宮城県沖地震では、死者 28 人（ブロック塀などの下敷き 18 人を含む）、負傷者 1,325 人、建物の全半壊 7,400 戸、停電 70 万戸、断水 7,000 戸という多大な被害が生じた。特徴の 1 つとして、ブロック塀倒壊の多発が挙げられ、このブロック塀の倒壊によって 18 人の子供が犠牲となった。この地震は、当時の人口 50 万人以上の都市が初めて経験した都市型地震の典型と言われ、この地震を契機に、宮城県では自主防災組織を各町内会に設置する動きが起こり、1995 年の阪神・淡路大震災以後、この動きは加速した。 （２）東日本大震災時の状況について 地震発生時、私の自宅がある七郷地域は震度 7 の烈震で、4 ～ 5 分ほどすごい揺れが続いた。仙台市では 11.5 メートルの津波の被害を受けた。海面が 11.5 メートル高くなった状態で海水が押し寄せ、海岸から 3 キロ以上内陸まで浸水した。県警ヘリの避難指示を聞き、3 つの町内会を走り、周辺住民に声をかけてまわった。町内会では大規模災害に備えて、毎年避難訓練を行っていたが、東日本大震災では、ほとんど役に立たなかった。激しい揺れに動揺する中、道路は寸断され、携帯電話、固定電話ともつながらないため、火の始末、出口の確保、家族への連絡、周りの人の安否確認等、身を守るすべてのことができなかったからだ。また、独り暮らしの老人の中には避難を嫌がり、自宅のカギや通帳・印鑑を探させる人がいた。この時は、人命が大事だと言って半ば強引に避難させた。ライフラインが止まってしまうと、高齢者が 1 人で暮らすのは難しくなるからだ。被災者の中には油断して避難しなかった人や、津波がまだ来ないから玄関のカギをかけてくると言って戻ってしまった人なども多かった。

	さらに、避難所に滞在する人が多くなると、住宅地では住民が不在となるため、夜間はどうしても不用心となってしまう。区域外からの不法侵入者に備えるために、自警団を編成して区域のパトロールを行った。 （３）避難所の状況と、避難生活から得た教訓 長い避難生活を考え、町内会の主要な役員を核とした組織編成を行ったが、組織に対する不満、顔見知り同士の派閥、プライバシーのない集団生活でのストレス、ペット問題、ボランティア団体の過度な訪問など、避難所生活では対処するべき課題が絶えなかった。原因の１つとして、津波避難と防災訓練は行ってきたが、「避難所運営訓練」を全く行っていなかったことがあげられる。今後の防災対策では、避難所へ移動して終わる避難訓練だけではなく、その後を想定した避難所運営訓練を多く行うことと、自主防災組織や避難所運営組織には女性を積極的に登用することが必要である。また、避難所はどうしても高齢者中心になる（実際９割が高齢者で占められた）ため、高齢者の目線での生活サイクルを維持できるように工夫する必要がある。 災害時には食料や燃料の不足が予想される。日頃から数日分の食料と水を備蓄しておくことはもちろん、車の燃料も、満タンを維持するように心がけたい。 また、運ばれてきた物資の運搬や、避難所の掃除など、手伝ってくれた子どもたちの活躍が目立った。東日本大震災以降、学校を含めた地域、行政が連携して、積極的な訓練の実施を行うとともに、町内会行事等に積極的に参加して近隣の住民とのコミュニケーションをとっていくことの必要性を感じた。そして何より求められるのは、行政、町内会、民生委員等との連帯を密にし、情報の共有化を図ることであり、迅速な判断と行動である
開催地より	東日本大震災時の実体験に基づく避難所運営についてのお話しを、非常にわかりやすくご説明いただいた。当市では今日の講演をふまえ、女性の防災リーダー育成を進めるとともに、大規模災害時の避難所運営を想定し、自主防災組織による避難所運営のスキルアップを進めていきたい。